

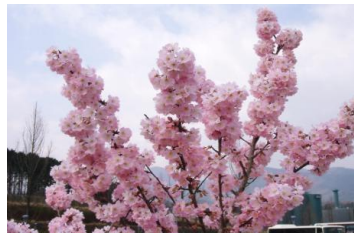
花トピア（あしがら花紀行&フラワーユートピア構想）

花による地域おこしは、全国各地で行われており、都市住民との交流による地域振興策として定番の取り組みでもあると考える。

南足柄市が10年来進めている主要事業に四季折々に咲く花による地域おこし「あしがら花紀行」がある。「あしがら花紀行」の花のエリアづくりは着実に進んでおり、住民参加型のボランティアによる足柄ならではの地域活動として、あしがら花紀行の先駆け団体である「あしがら花紀行千津島地区実行委員会」では、06年「平成18年度豊かなむらづくり全国表彰事業」、08年「全国花のまちづくりコンクール」で共に、農林水産大臣賞を受賞さらに、10年「平成22年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞するなど優良事例として高い評価を受け、全国的にも認識されつつある。05年11月、あしがら花紀行を実践する団体などによる「あしがら花紀行ネットワーク」が発足し、また、11年現在、22団体、3個人、総勢1,077人が、この取り組みに参加している。花のエリアには確実に人が集り、地域経済の振興が図れるなど、花が観光資源になることを多くの人が実感できる状況が生まれている。



花紀行を代表する
春めき



酔芙蓉

そして、あしがら花紀行の最終目標は、足柄地域に年間400～500万人の都市交流型の経済圏を誕生させることにある。「あしがら花紀行」の問題点として考えられる事項に、ボランティア活動が主体の地域おこしであり、取り組みのPRや活動費などのソフト面及び駐車場、トイレなどのハード面双方の支援を行政から受けている。行政の支援（税金）が必要不可欠であり、花による地域おこしをより持続可能な取り組みにするため新たな手法を創出する必要があると考えていた。



千津島地区の菜の花畑



ハナアオイ農道



リコリスの里

このような中、持続可能な花による地域おこしとして、経済活動を優先させた、また、無理なく花のエリアを拡大する新たな手法として「フラワーユートピア構想」を打ち立てた。この構想は、花を資源とする観光農園化を目指す農家のグループと地域住民が一体となって創る「花の理想郷づくり」である。遊休農地（耕作放棄地）などを活用し、年間を通して花を見ることが出来るエリアを創り、都市住民などを呼び入れ、農地を開放し社会性をもたせる。そして、ブルーベリーや梨、みかん、野菜などの収穫体験ができる観光農園化や農産物の直売の促進を図ることにより、農業による経済振興と経済基盤の確立された持続可能な花による地域おこしが具現化できるものと考えている。



観光ブルーベリー園



観光梨園

また、グループで育てた花や花木の苗などは市民に無料提供され、地域全体が同じ季節に同じ花が咲く取り組みでもある。行政の支援（税金）については、取り組みのPRなどのソフト面に留めた範囲としており、農業者のイニシアティブを期待している。

「フラワーユートピア構想」を市の農業施策に供するための試行として、この構想を活動指針に掲げた農家のグループ「あしがらユートピア」が07年5月13日に発足した。

グループの成果を持って市の農業施策にするためであり、行政からの金銭的な支援は一切していない。

あしがら花紀行をスタートさせた時と同様、農政担当の職員（私自身）の提案（全ての苗木などの提供含む）とその実践であり、一種のボランティア活動である。

職員はグループのオブザーバーとして関わり、花の栽培指導や新聞社などへの報道関係を担当した。07年5月、担い手の無い遊休農地、約1000㎡を借り受け、ざる菊、ヒマワリ、コウテイダリアなどを植え付けた。ざる菊などの花が見頃となった11月18日（日）には、自治会のレクリエーション部などの協力を受け、豚汁、焼き鳥などの模擬店やみかん、柿、キウイ、野菜などの販売を行った。当日は、

1000人を超える集客があり、農産物や模擬店の品々も完売した。

また、農産物などの販売以外に、ブルーベリー狩りや梨のもぎ取り、直売などができる観光農園のPRをし、多くの来園者の予約の確保をした。なお、11月の集客数は15,000人を数えた。テントで販売した農産物は即日完売してしまうほど盛況であった。



11月に咲いたヒマワリ コウテイダリア コウテイダリアの無料配布

さらに、12月の22日～29日に行ったコウテイダリアとトランペットフラワーの増殖用の枝の無料配布には、191家族が訪れた。地域住民と一体となって創る「花の理想郷づくり」に向けた取り組みは着実に進んでいる。以上の成果を持って12月5日、市産業建設部長より、08年度「あしがらユートピア」の経営手法を参考にした農業施策（遊休農地の解消方策など）を実施する決裁を受けた。

08年6月には、ざる菊畑と農道を挟んだ約3000㎡の農地の利用集積を行い、あしがらユートピアの新たな花として「ガーデンマム（洋菊）」の植え付けに着手した。10月には1000株が咲く花畑に20,000人以上の来園者があった。

土日、祝日などの農産物の販売には、グループ以外の農家も参加し、「安心・安全・新鮮そしてリーズナブル」をモットーにテントでの対面販売が行われ、ユート

ピア農園ならではのものとして来園者に喜ばれた。



対面による農産物の販売



足柄人形などの特産物の販売

花の苗などの無料配布は、08年も引き続き行われ、5月のざる菊の苗には、456家族、5団体、12月のコウテイダリアなどには、210家族が訪れ、グループが目指す「花の理想郷づくり」の輪は年を追うごとに広がっている。



ざる菊畑に多くの来園者



ガーデンマム（洋菊）畑にはハイヒールの女性が

今後の展望は、あしがら花紀行とフラワーユートピア構想による双壁の花のエリアづくりを足柄地域全体に展開させることにより、東京、横浜などの都市住民との交流による、年間400～500万人の都市交流型の経済圏を誕生させたい。



農園に設置された看板



あしがらユートピアのメンバー

2011年 神奈川県南足柄市 古屋 富雄